

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

ジェット燃料輸送期限延長反対で沿線市町へ申し入れ！



80.7.25

No. 491

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二三五八一九・(公衆)0571(22)七二〇七

パイプライン工事即時中止・ジェット燃料貨車輸送反対！三里塚二期工事阻止を圖りぬこう！

政府・運輸省は去る六月二十六日、「来年三月までの本格パイプライン完成が不可能、さらに二年二ヶ月の延長が必要」と発表した。

このことは、「暫定貨車輸送は、三年間とする」との閣議決定を自ら反古にし、パイプライン工事期間の大巾延長＝工事強行と暫定貨車輸送の大巾延長を意図したものである。

こうした状況の中で、三里塚芝山連合空港反対同盟・動労千葉・動労ジェット闘争支援共闘会議・パイプライン埋設阻止千葉県共闘会議の四団体は、七月十五日の千葉市をかわきりとして、佐倉市、成田市、鹿島町など沿線市町に対し、パイプライン工事即時中止・ジェット燃料貨車輸送の延長拒否などを申し入れ、交渉を行なった。

ジェット燃料輸送問題は、

三里塚空港のアキレス腱！

内陸空港である三里塚空港にとつて強行開港以来、ジェット燃料輸送問題は最大のアキレス腱であった。

そして、さきに運輸省・空港公団が行なつた本格パイプライン工事の二年二ヶ月延長という発表は、まさに燃料問題が三里塚空港そのものの死命を制する問題として最大のアキレス腱であることをますます明らかにしている。

暫定貨車輸送は、われわれ動労千葉の鉄路を武器とした三里塚・ジェット闘争によつて「いつでもストップされるもの」として、極めて綱渡り的な輸送を行なつてゐるにすぎない。

そして、本格パイプラインについては、パイプラインを軟弱で劣悪な地盤の花見川の川底に埋め込み、発火を誘発する静電気を無視して秒速一・五メートルの高速で送油するなど全く安全基準を無視したものなのである。しかも一センチの穴があいただけで三〇〇メートルもの火柱がふき上るというパイプラインを住宅密集地に埋設しようとしている。

このような本格パイプラインの安全無視＝住民無視の工事強行に対し、沿線住民・市民の怒りの闘いが盛り上っている。

暫定貨車輸送延長攻撃は、

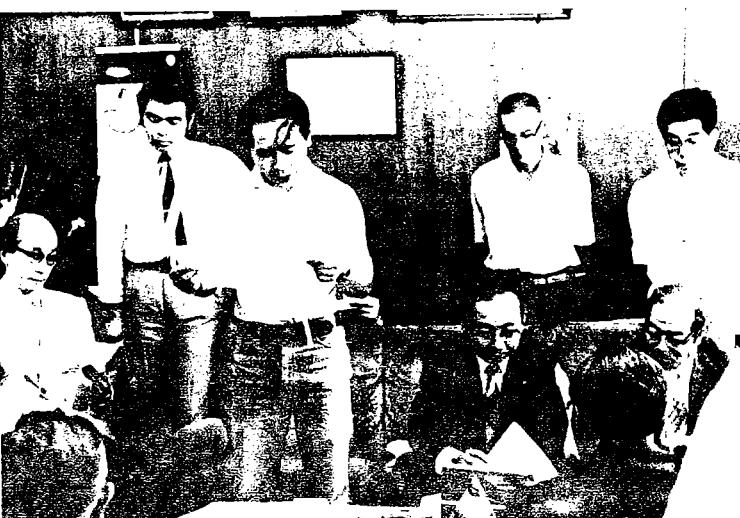
二期工事強行への足がかり！

このような安全無視＝住民無視の本格パイプライン工事を政府・公団は、なんとしても完成させることなく、工事期間の二年二ヶ月の延長を発表したのだ。

パイプラインの完成によつて燃料の大量かつ安定供給を確保し、飛行便の増加と二期工事着工の足がかりをつくろうとしている。

反対同盟・沿線住民と連帯してパイプライン工事阻止・貨車輸送延長攻撃を粉碎しよう！

今回の四団体による沿線自治体に対する申し入れ・交渉の中で、それぞれの市町当局は、「いまだ公団から正式な連絡がない」「申し入れがあれば慎重に対応する」などと答え、特に千葉市当局は、「空港公団のいうがままに『パイプラインの安全性は確保されている』などと全くデータラメな回答を行なつてきた。



7月19日、鹿島町当局に燃料輸送延長拒否を強く申し入れる抗議団。抗議文を読み上げる鹿島市民の会関沢紀氏。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！